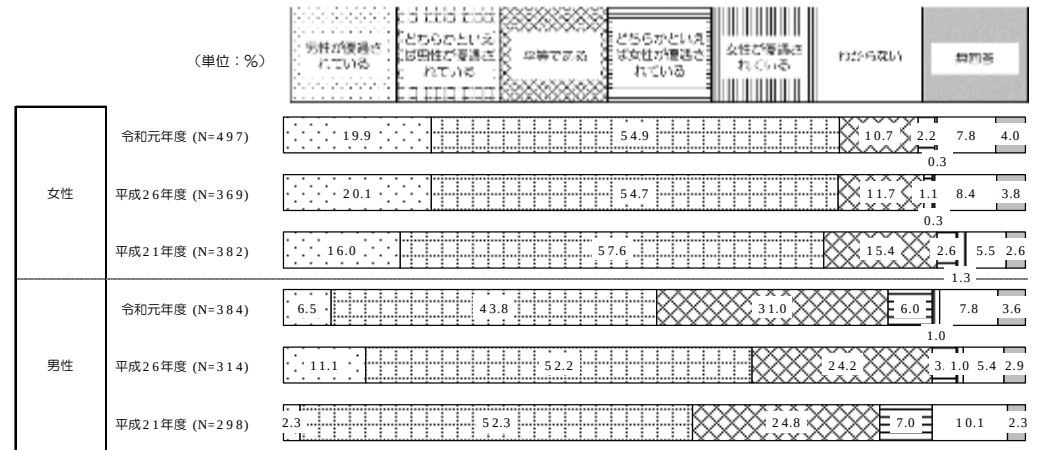


2 男女平等の現状認識

平成26年度調査と比較すると、
『男性優遇』※と感じている割合は、
女性では変わらないが、
男性では**13ポイント**減少している。

※『男性が優遇されている』
『どちらかといえば男性が優遇されている』
の合計

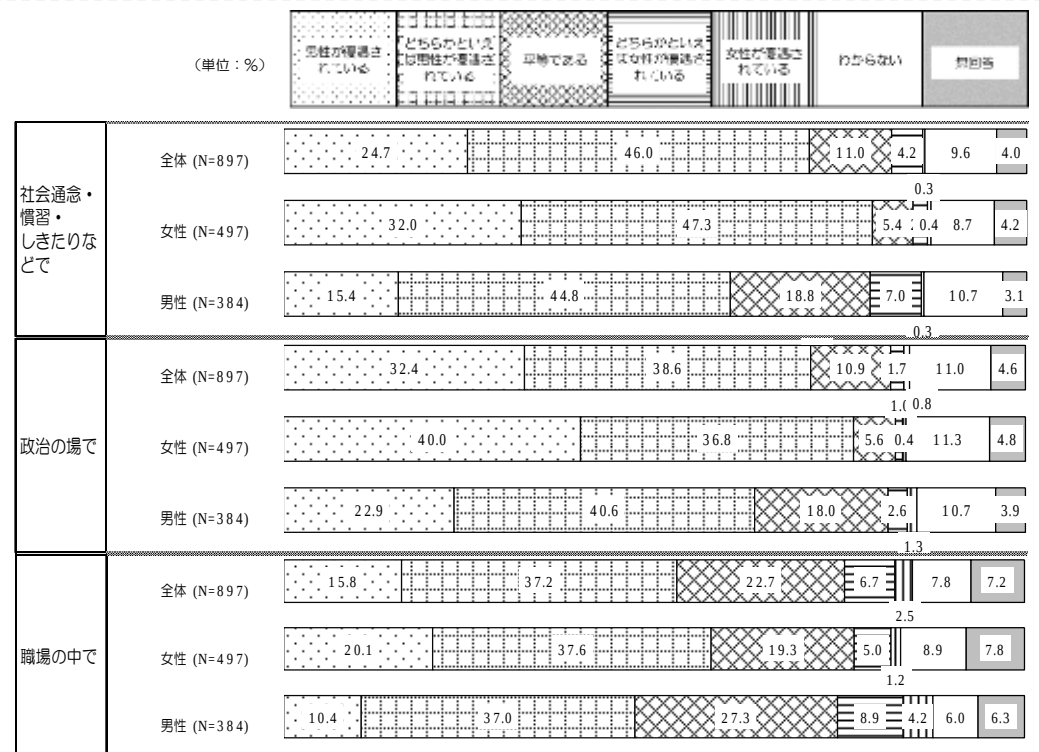


分野別では、右記の**3分野**で『男性優遇』と感じている割合が**50%を超えた**。

「社会通念・慣習・しきたりなど」
「政治の場」では『男性優遇』と感じている割合が特に高く、女性で約**8割**、男性で約**6割**となっている。

令和元年度「男女共同参画に関する府民意識調査概要」（大阪府）より

<https://www.pref.osaka.lg.jp/danjo/danjo/huminisikityousa26.html>



3 性別役割分担意識

「男は仕事、女は家庭」という考え方に同感しない人は**64.8%**となっている。

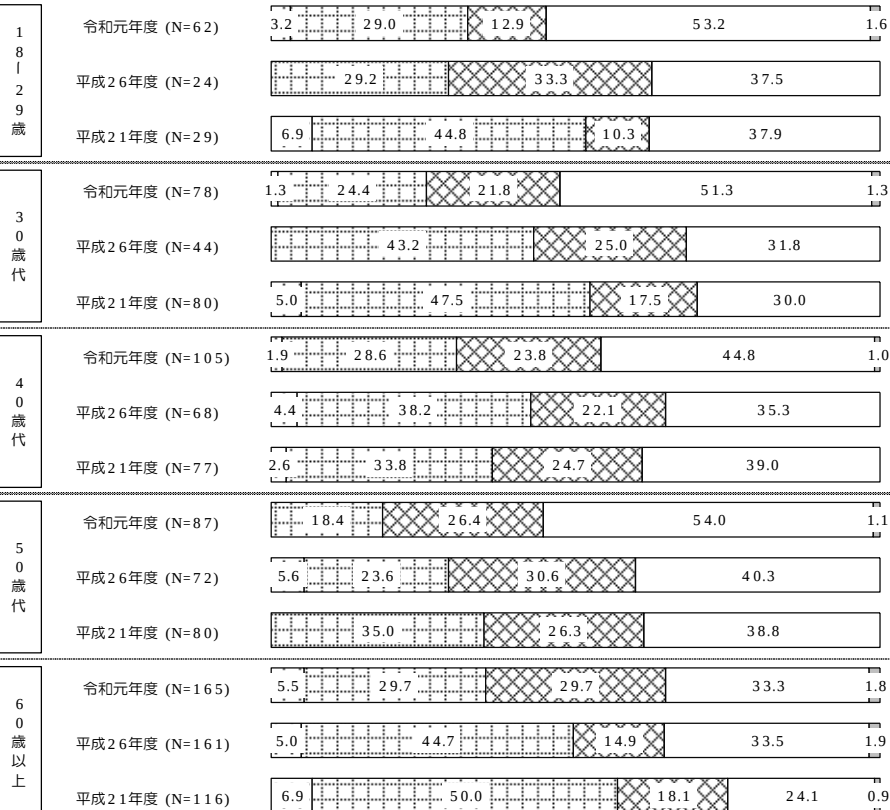
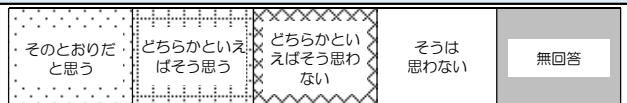
平成26年度調査と比較すると、**18-29歳(女性)**、**60歳以上(男性)**を除く全年代で「同感する」割合が減少している。

※令和元年度調査から満18歳以上を調査対象に設定

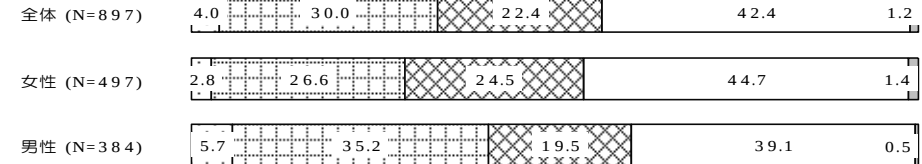
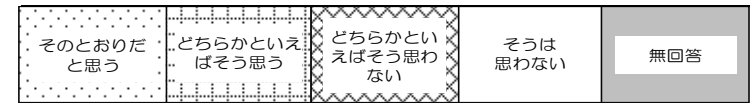
平成26年度、平成21年度は満20歳以上を調査対象としている

<女性>

(単位：%)

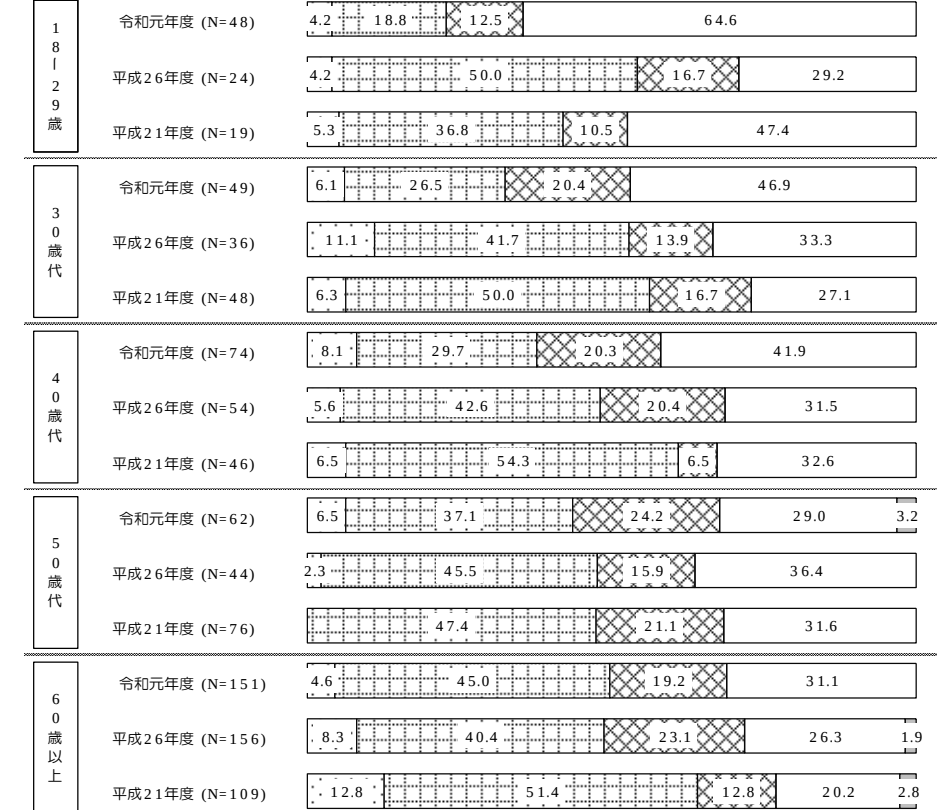
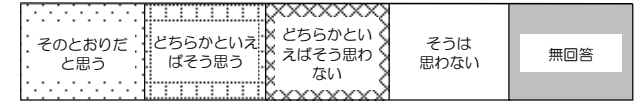


(単位：%)



<男性>

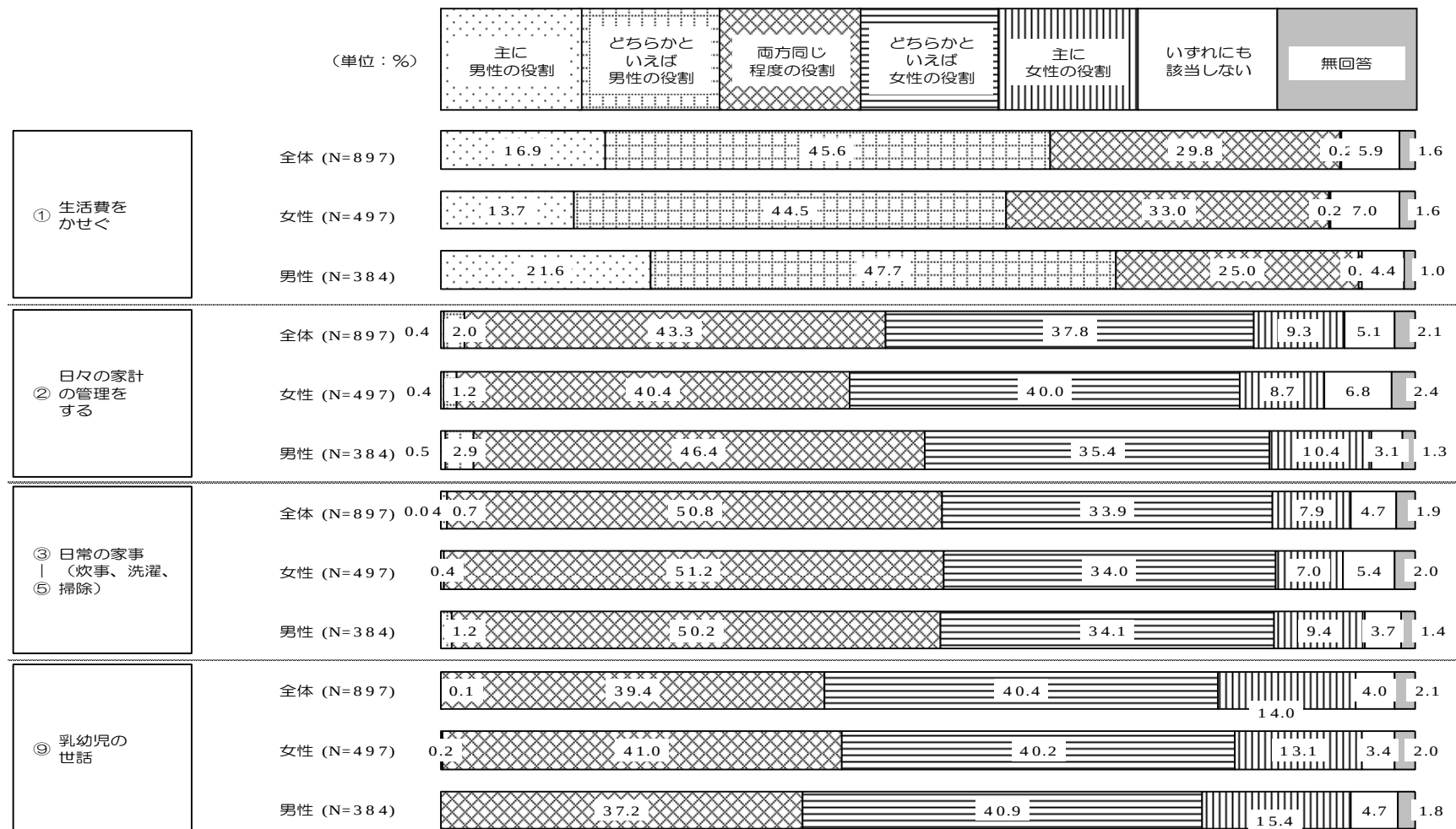
(単位：%)



5 家庭の仕事の役割分担

家庭の仕事の役割分担を見ると、「生活費をかせぐ」は『男性の役割』と考えている人が**62.5%**で最も高くなっており、男性は**69.3%**と女性よりも**10ポイント**以上高い。

一方、「日々の家計を管理する」「日常の家事」「乳幼児の世話」は『女性の役割』と考えている人が**4割から5割程度**を占めており、男女間のポイント差はいずれも**3ポイント以内**となった。



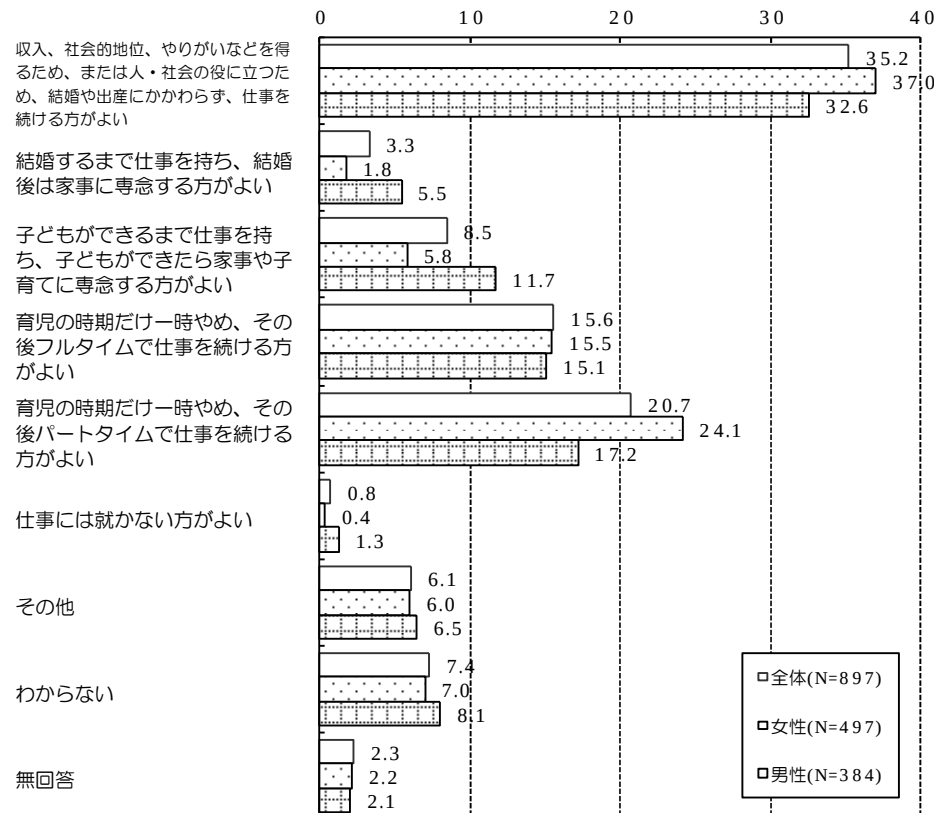
8 女性の働き方(考え方・実際)

女性の働き方「考え方」については「収入、社会的地位、やりがいなどを得るため、または人・社会の役に立つため、結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい」が**35.2%**で最も高く、次いで「育児の時期だけ一時やめ、その後パートタイムで仕事を続ける方がよい」が**20.7%**となっている。

一方、「実際」について見ると、回答者の属性を問わずフルタイム・パートの双方で仕事を続けている割合が減少し、結婚後は家事に専念していると回答する人の割合が増加しており、女性については**10ポイント以上増加している(1.8%⇒12.5%)**。

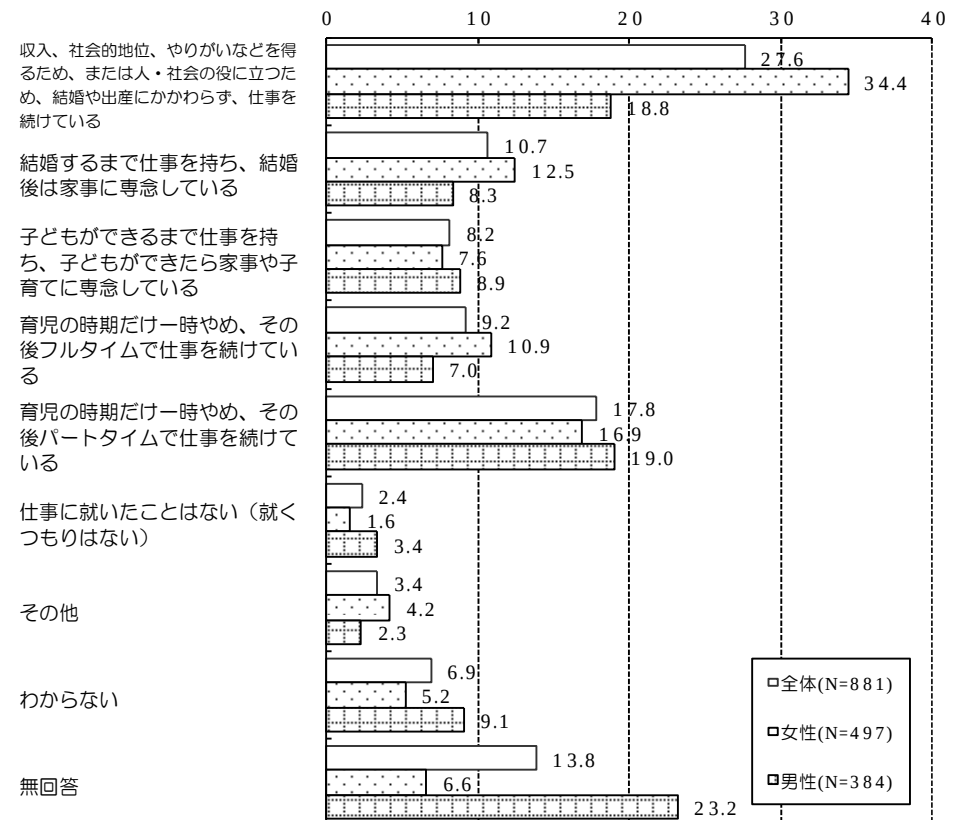
【女性の働き方（考え方）】

(単位：%)



【女性の働き方（実際）】

(単位：%)



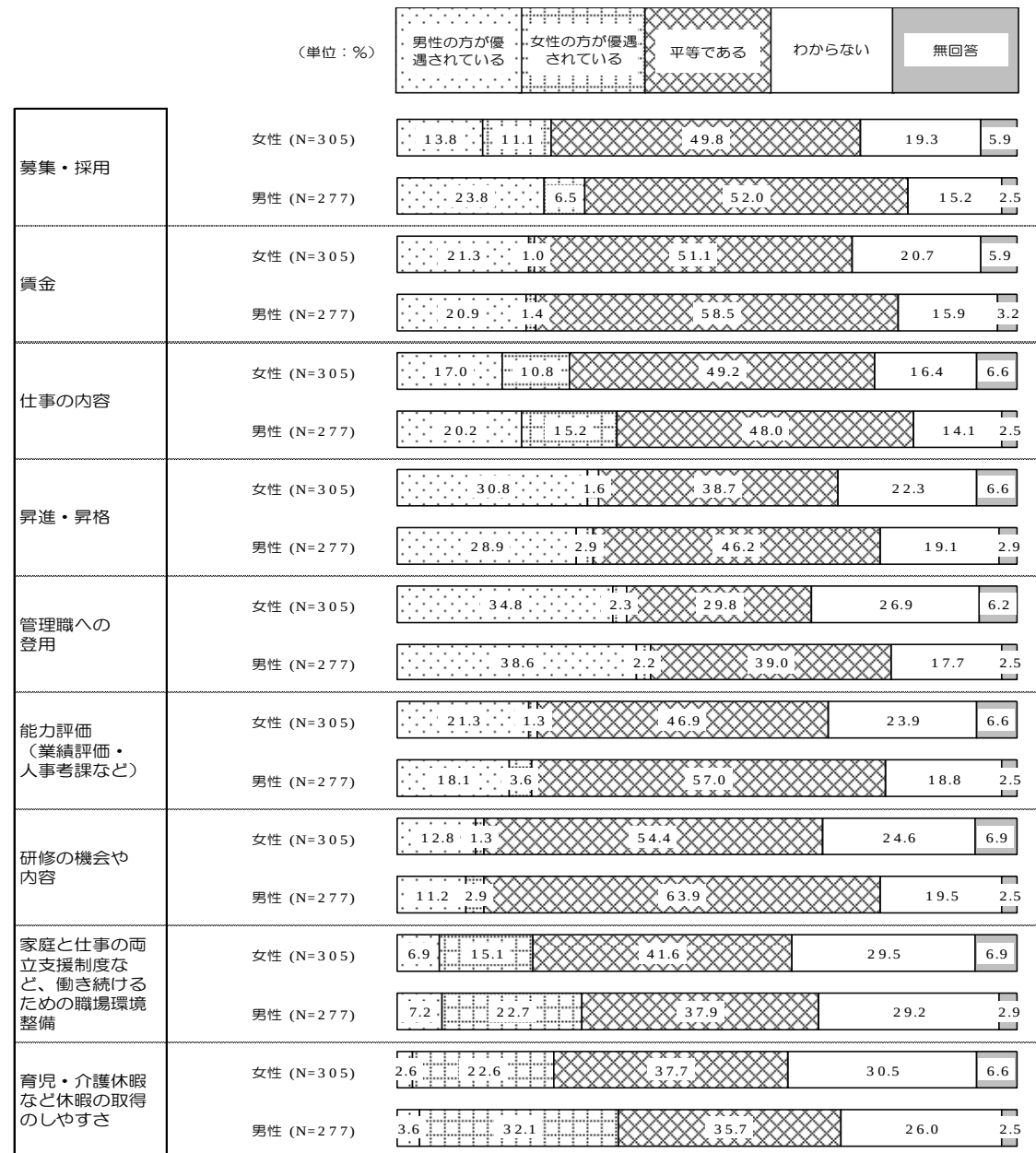
9 職場において男女格差を感じること

職場において、「男性の方が優遇されている」と感じている割合については、「管理職への登用」（女性**34.8%**、男性**38.6%**）が最も高くなっており、次いで「昇進・昇格」（女性**30.8%**、男性**28.9%**）となっている。

男女間のポイント差が最も大きかったのは「募集・採用」（女性**13.8%**、男性**23.8%**）で**10**ポイントとなった。

「女性の方が優遇されている」と感じている割合については、「育児・介護休暇など休暇の取得のしやすさ」（女性**22.6%**、男性**32.1%**）が最も高くなっており、次いで「家庭と仕事の両立支援制度など、働き続けるための職場環境整備」（女性**15.1%**、男性**22.7%**）となっている。

男女間のポイント差が最も大きかったのは「育児・介護休暇など休暇の取得のしやすさ」（女性**22.6%**、男性**32.1%**）で**9.5**ポイントとなった。



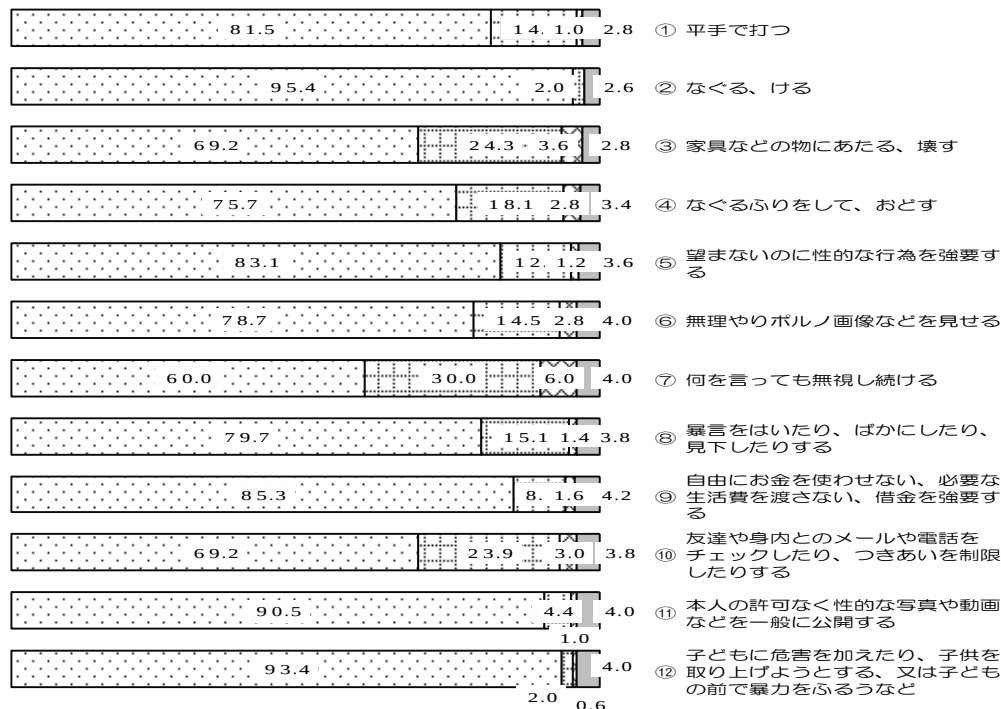
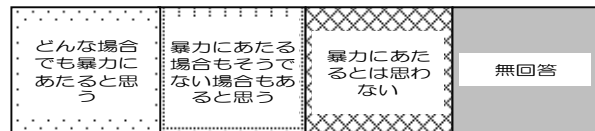
1 6 暴力だと思うこと

暴力だと思うことについて、「どんな場合でも暴力にあたると思う」をみると、「なぐる、ける」、「子どもに危害を加えたり、子供を取り上げようとする、又は子どもの前で暴力をふるう」で男女とも9割を超えている。

性別で見ると、全項目で女性の方が「どんな場合でも暴力にあたると思う」割合が高くなっており、「友達や身内とのメールや電話をチェックしたり、つきあいを制限したりする」については男性と比較して12.4ポイント高くなっている。

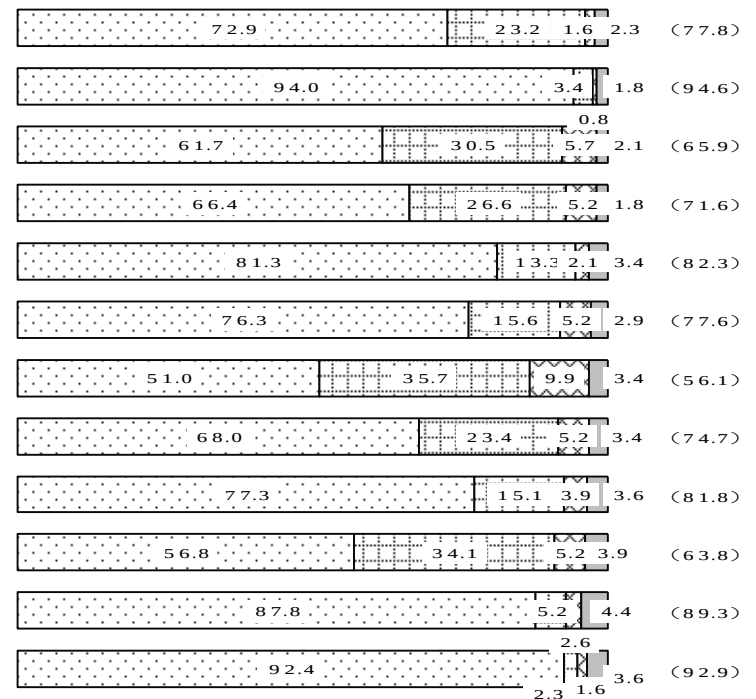
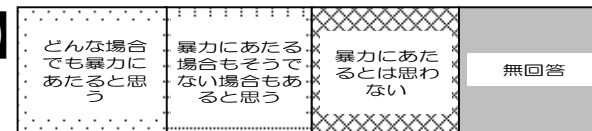
※右端のカッコ内の数字は回答者全体における「どんな場合でも暴力にあたると思う」を選択した割合

【女性】



(n=497)

【男性】



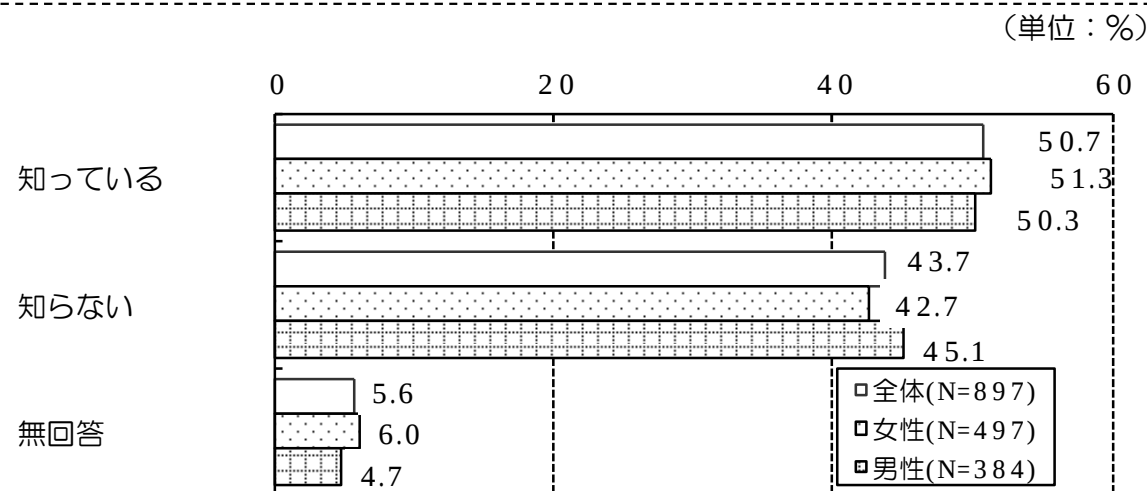
(n=384)

1 7 配偶者等からの暴力（DV）の相談窓口の認知度

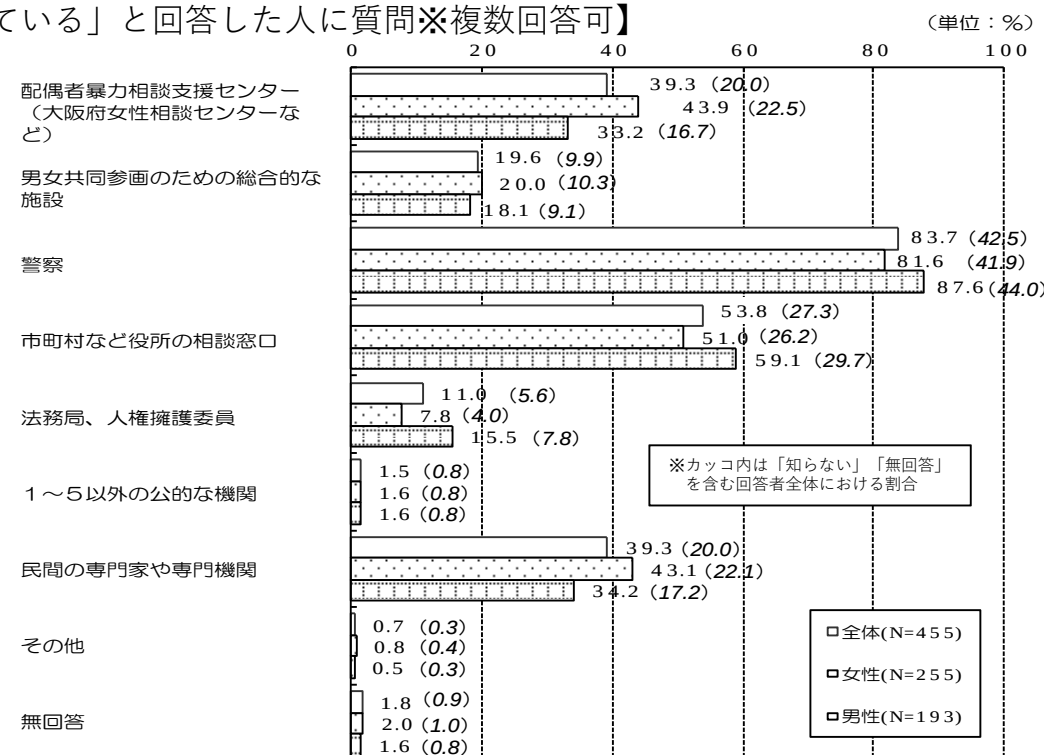
配偶者等からの暴力（DV）について、相談窓口が存在する事を知っている割合は**50.7%**となった。

うち、窓口別の認知割合としては、「警察」が**83.7%**で最もよく認知されており、次いで、「市町村など役所の相談窓口」が**53.8%**、「配偶者暴力相談支援センター(大阪府女性相談センターなど)」「民間の専門家や専門機関」がともに**39.3%**となっている。

性別で見ると、「警察」「市町村など役所の相談窓口」「法務局、人権擁護委員」以外は女性の認知度の方が高かった。



【相談窓口を「知っている」と回答した人に質問※複数回答可】

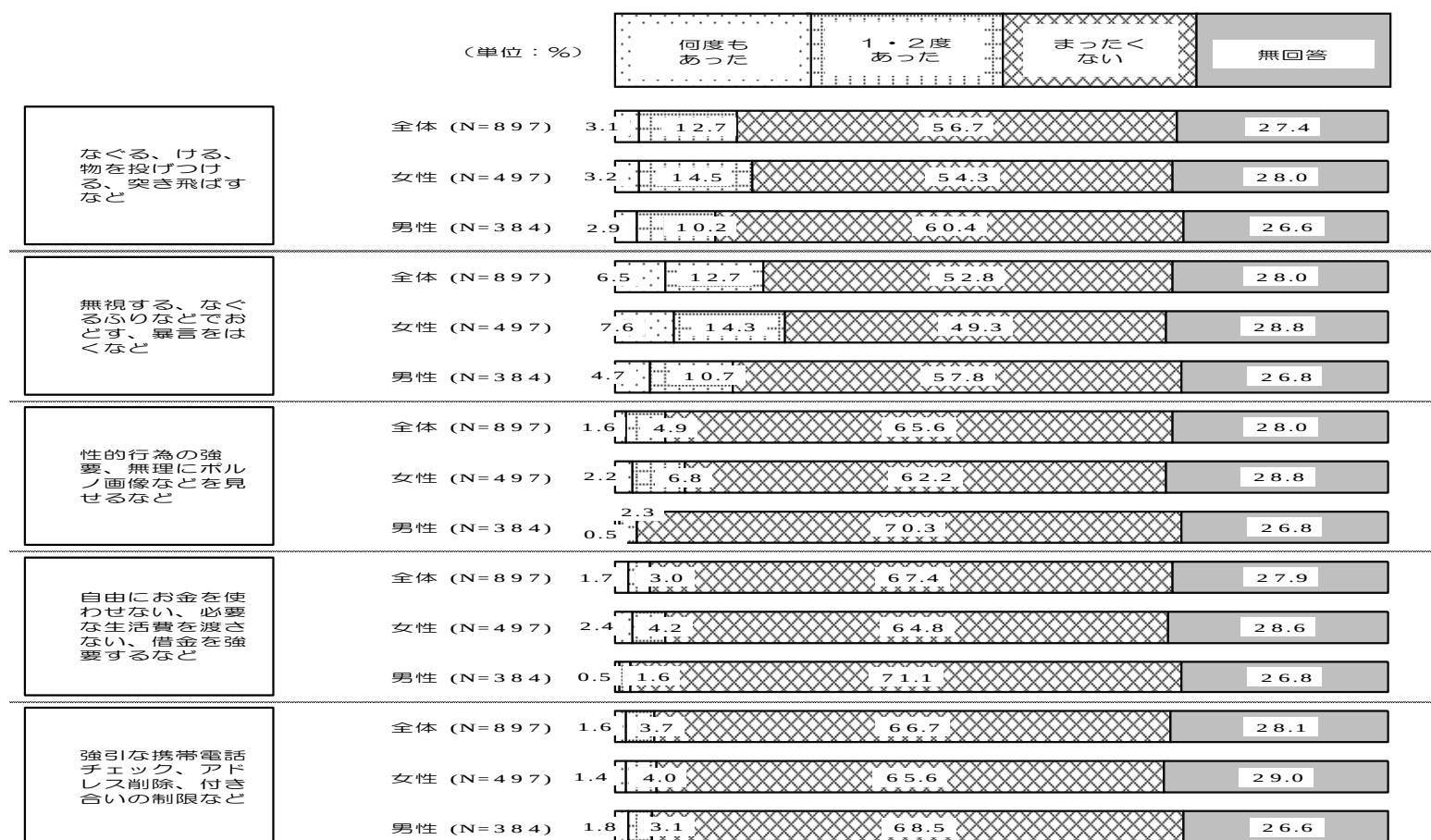


18-1 配偶者等からの暴力（DV）を受けた経験

配偶者等からの暴力（DV）を受けた経験について「何度もあった」でみると、「無視する、なぐるふりなどでおどす、暴言をはくなど」が**6.5%**で最も高く、次いで「なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばすなど」が**3.1%**となった。

『あった』※でみると、「無視する、なぐるふりなどでおどす、暴言をはくなど」が**19.2%**で最も高くなった。性別で『あった』を見ると、「無視する、なぐるふりなどでおどす、暴言をはくなど」で男女のポイント差が最大となった。（女性**21.9%**、男性**15.4%**）

※「何度もあった」「1・2度あった」の合計

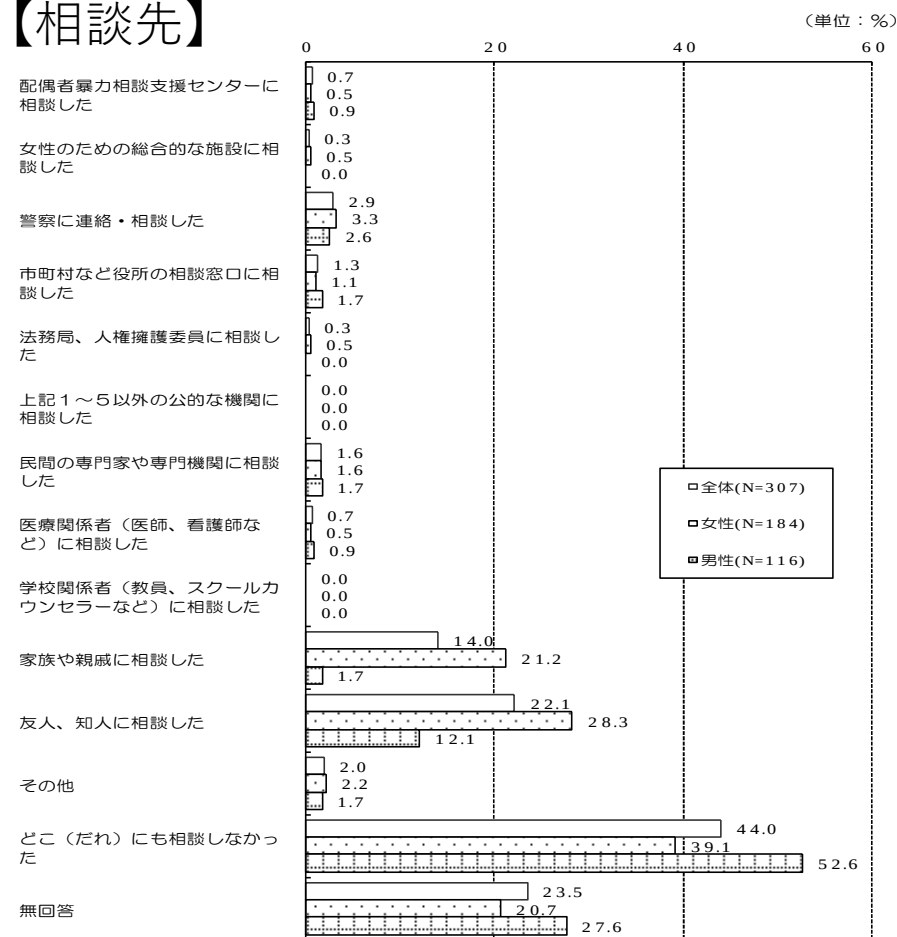


19-1 ドメスティック・バイオレンス（デートDVを含む）の相談先等

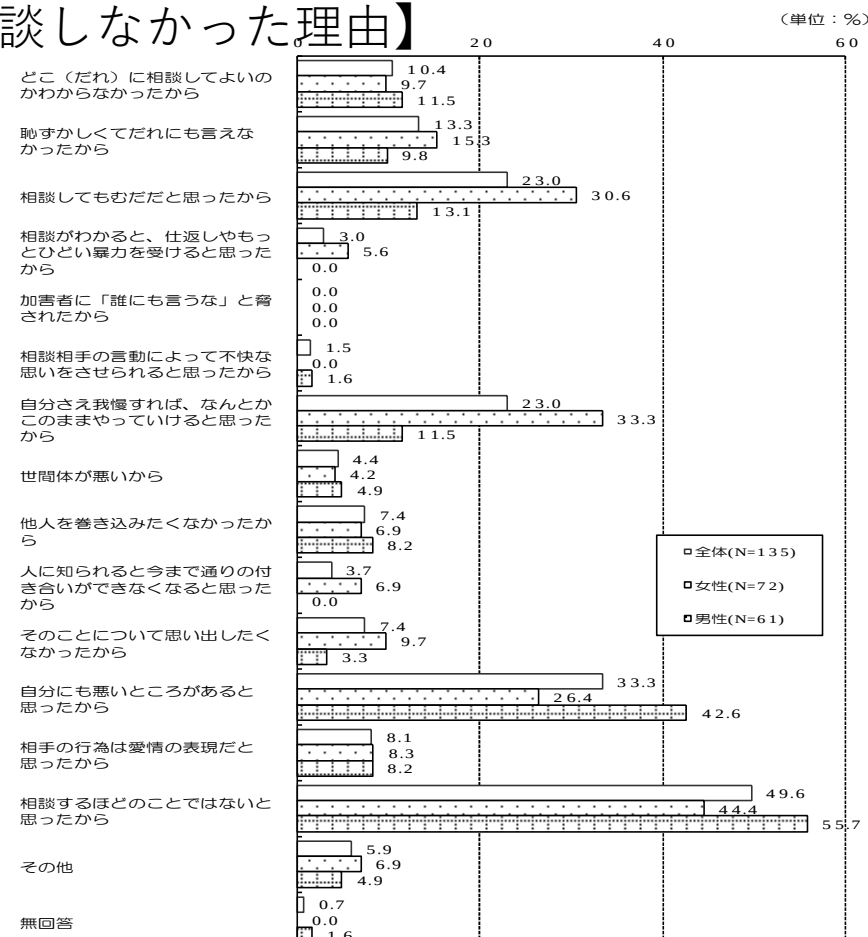
ドメスティック・バイオレンス（デートDVを含む）の相談先等を見ると、「どこ（だれ）にも相談しなかった」が最も高く、男性では**52.6%**となった。相談先としては「友人・知人」**(22.1%)**となっているが、女性**28.3%**、男性**12.1%**と**16.2**ポイントの差がみられた。

相談しなかった理由では「相談するほどのことではないと思ったから」が男女ともに最も高く、次いで女性では「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」**(33.3%)**、男性では「自分にも悪いところがあると思ったから」**(42.6%)**となった。

【相談先】



【相談しなかった理由】

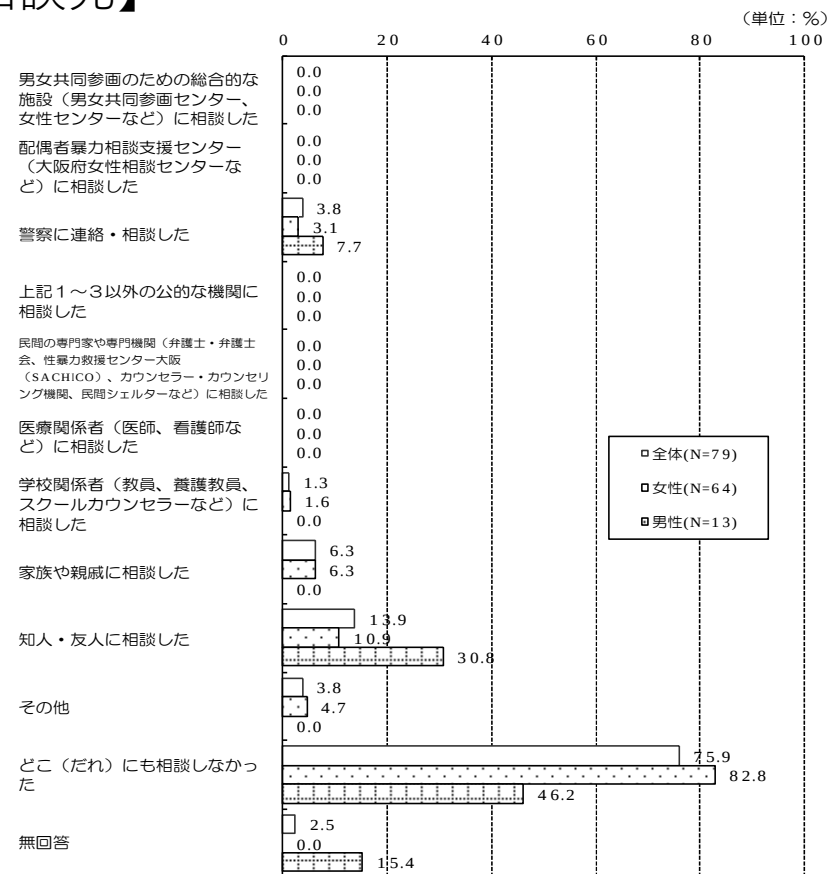


19-2 性暴力被害の相談先等

性暴力被害の相談先等を見ると、「どこ（だれ）にも相談しなかった」(75.9%)が最も高く、女性では82.8%となった。相談先としては「友人・知人」(13.9%)となっているが、女性10.9%、男性30.8%と約20ポイントの差がみられた。

相談しなかった理由では「相談してもむだだと思ったから」(36.7%)が男女ともに最も高く、次いで女性では「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」(26.4%)、男性では「相手の行為は愛情の表現だと思ったから」(33.3%)となった。

【相談先】



【相談しなかった理由】

